

空手道詳説（41）

第2章 沖縄史の概説

4 沖縄史の概略（その7、琉球の言語と文化）

（1）沖縄の言語

コ 電波に乗っているウチナーグチ

長い王国時代を支えてきた琉球方言（ウチナーグチ）は、生活や固有の文化とともに人々の心に根強く生きている。

それは単なる郷愁ではない生活感情の土台となっているばかりか、身の回りを取り巻くあらゆる事象と結びついているからと言えるだろう。

新方言のウチナーヤマトグチは、標準語一辺倒になっても不思議でなかった沖縄において、已むに已まれぬ選択肢として生まれたと筆者は考えている。

1960年（昭和35年）7月開局した「ラジオ沖縄」に、開局2か月後の9月から放送を開始し今に続く「方言ニュース」という長寿番組がある。局のニュースキャスター（以下、「キャスター」と略記する。）がこれを担当し、ラジオ沖縄が独自に取材した記事や「琉球新報」の記事をもとに話題を取り上げている。

放送開始の切っ掛けは、その頃多かった標準語を理解できない高齢者向けの番組であった。時代の経過とともに標準語が普及し一般化したため、何時かは消える番組とみられていた。

ところがそれとは逆に、標準語が日常生活の中に定着しウチナーグチが話せない理解できない住民が増える一方、沖縄の土壌風土や人心の機微にマッチした語彙と話法など、ウチナーグチの持つ良さが見直されるようになった。今ではこの番組は、ウチナーグチに触れる機会を提供する役割を担っている。

ただ、同じウチナーグチといっても、前項で述べた「ウチナーヤマトグチ」の影響や50有余年の時代経過は、古い言葉の一部は薄れ、新しい言葉が加わるなどの変化は、致し方ない当然の成り行きといえよう。

専属キャスターは未だ二代目というから、いかにも長者番組らしい体を示している。

前出の外間守善の著書「沖縄の歴史と文化」の104～106頁には、一例として1985年11月6日放送の記載がある。古い資料だが次に記載する。

ウチナーグチ放送から	標準語に訳せば
<p>チューワガナビラ ニジヌ ホーゲン ニュース ウンヌキヤビーン。</p> <p>イシガキシカイアル バンナーダキ ヌ シンリンコーエンセイビケイカクヌ ティーチトウシティ クリカラチクティ イチュル クトウンカイナトル ツィ リバシニチーティヌ ウハナシ ウンヌ キヤビーン。</p> <p>ウレー イジカキダムヌ ウィームデ イーンカイ ナギヌ ヒヤクイチメート ルアル ツィリバシ カキールクトウン カイナティ アキティヌ サングワチニ ムルスビナイルククルジムイ ソーイ ビーン。</p> <p>ケンヌ ヤイヤマドボクジムショウト ーテー クンドウチクイル ハンヌナー トウ ハシヌイル ヌーイロー マジカ ヤーンリイチ ウマンチュヌ クキーチ チュル クトウンカイ ナトーイビー クトウ ナー チャヌフージーンカイガ キマイガタヌシミニ ククルマチ ソー イビーン。</p> <p>ウチナーウトーテー ハジミティヌ ツィリバシヤイビーン。</p> <p>ツィリバシカイヒチュール イタトウ イタトウヌ エーダー クーテーナー アキティ ハシヌヒチャヌミジヌ ンダ リールグトウ カンゲーティ ハシヌヒ ジャヌミジヌ ンダリールグトウ カン ゲーティ チュクラットーディル ク トウヤイビーン</p>	<p>こんにちは。二時の方言ニュースを申 し上げます。</p> <p>石垣市のバンナー岳の森林公園整備 計画の中の一つとして、そこから造って いくことになっているつり橋について のお話を申し上げます。</p> <p>それは、石垣ダムの上の方に、長さ1 01メートルあるつり橋をかけること になり、明けて来年の3月の完成する心 積りをしています。</p> <p>県の八重山土木事務所では、今度造る 橋の名と、橋の色は、どの色がよいかと いうことで、人びとの声を聞くことにな っており、さて、どのように決まるか、 楽しみに心待ちしています。</p> <p>沖縄では、初めてのつり橋です。</p> <p>つり橋に敷いてある板と板の間は少 しずつ空けて、橋の下の水が見られるよ うに考えて造られることになっており ます。</p>



現在、番組を担当しているキャスターの方々に、左から順に糸数昌和（月・金曜日）、宮城葉子（火曜日）、上地和夫（水・木曜日）の各氏である。

（つづく）

参考文献等（発行年月は著書に記載のまま）

- ・ 藤原稜三著「格闘技の歴史」、1990年3月30日第1版、ベースボールマガジン社発行
- ・ 上地完英監修「詳説沖縄空手道」、1977年11月1日上地流空手道協会発行
- ・ 宮城栄昌著「沖縄の歴史」、昭和43年11月26日初版、日本放送出版協会発行
- ・ 新里恵二著「沖縄史を語る」、1970年9月1日初版、榊勁草書房発行
- ・ 池田奉秀著「古流現代空手道集義第一巻」、昭和50年7月25日初版、日本空手道常心門出版部発行
- ・ 喜納大作、上里隆史共著「琉球王国のすべて」、2012年6月20日初版、榊河出書房新社発行
- ・ 上里隆史著「オモシロ琉球・沖縄史」2011年6月25日初版、榊角川学芸出版発行
- ・ 外間守善著「沖縄の歴史と文化」1686年4月25日初版、榊中央公論新社発行
- ・ 比嘉朝進著「歴史・伝説にみる沖縄女性」2005年12月初版、那覇出版社
- ・ 「空手道・保存版」、執筆者・大塚博紀他31名、昭和52年3月初版発行、株式会社創造
- ・ 山里永吉著「首里城内の女たち」昭和47年4月20日初版、閣文社発行
- ・ 沖縄県教育庁文化課編集「中山世鑑」昭和57年10月15日、沖縄県教育庁発行
- ・ 井沢元彦著「日本史集中講座」、平成19年6月20日初版、祥伝社発行
- ・ 金城昭男著「空手伝真録」、初版平成11年7月10日、沖縄図書センター発行
- ・ 埴原和郎著「日本人の骨とルーツ」、初版平成9年9月30日、角川書店発行
- ・ 内間直仁・野原三義編著「沖縄語辞典」、初版2006年5月、株式会社 研究社発行